

授業科目名	助産診断・技術学演習 (2300311)		
時間割名	助産診断・技術学演習 (70241)		
時間割担当	美甘祥子 岡居久代		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	集中		

授業の目標・概要

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期各期の事例を用いて、エビデンスに基づいた助産診断展開能力を養う。事例展開内容はグループ討議や発表会を行い、問題解決方法のさらなる追究を行う。さらに、各期に必要な助産診断技術および正常分娩介助の演習を行う。分娩介助技術においては新生児蘇生技術を含み、母子ともに安全で満足感の持てる分娩を支援することをめざす。そのために、分娩介助技術については実技試験を行い、「助産診断・技術学実習」を履修する条件とする。

学習の到達目標

1. 妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の模擬事例を用いて、助産診断と助産計画の立案ができる。
 2. シミュレーターを用いて実際の流れに沿った妊産褥婦のフィジカルアセスメント技術を展開することができる。
 3. シミュレーターを用いて実際の流れに沿った新生児のフィジカルアセスメント技術を展開することができる。
- シミュレーターを用いて正常産の分娩介助を行うことができる。
4. 模擬事例とシミュレーターを用いて新生児蘇生法を行うことができる。

授業方法・形式

演習、グループワーク

授業計画

- 第1回 妊産褥婦のフィジカルアセスメント技術1
妊婦健康診査、超音波画像診断法
- 第2回 妊産褥婦のフィジカルアセスメント技術2
陣痛測定、内診法、頤部触診法、ザイツ法
- 第3回 妊産褥婦のフィジカルアセスメント技術3
分娩監視、CTGの判読
- 第4回 妊産褥婦のフィジカルアセスメント技術3
乳房触診、腹部触診
- 第5回 新生児のフィジカルアセスメント技術
身体計測、成熟度の判定
- 第6回 分娩介助法1
産婦の準備、助産師の準備、物品・環境の準備
- 第7回 分娩介助法2
児頭娩出、会陰保護法、軀幹娩出
- 第8回 分娩介助法3
胎盤娩出法、分娩直後の診察、胎盤計測
- 第9回 分娩介助法4
産婦の準備から胎盤娩出までの総合演習
- 第10回 新生児蘇生法
新生児蘇生のプロトコール、蘇生のための技術
- 第11回 模擬事例による総合演習1
妊娠期
- 第12回 模擬事例による総合演習2
分娩期
- 第13回 模擬事例による総合演習3
分娩期
- 第14回 模擬事例による総合演習4
産褥期・新生児期
- 第15回 まとめ

成績評価の基準

実技試験60%、総合演習の課題達成度40%

授業時間外の課題

各技術の自己練習や授業時に提示された課題への取り組み。

メッセージ

各診断・技術学で学習した内容を統合し、助産学実習に向けた準備を行う科目です。安全に助産学実習が行えるよう、各自で繰り返し練習し、技術の習得に努めてください。

教材・教科書

平澤美恵子編、写真でわかる助産技術アドバンス、インターメディカ
中井章人、図説CTGテキスト、メディカルビュー社
細野茂春監修、日本版救急蘇生ガイドラインに基づく新生児蘇生法テキスト第3版、メディカルビュー社

参考書

ナーシング・グラフィカ 母性看護学(2)：母性看護技術 第3版、メディカ出版
そのほか、適宜紹介する。